

SGHアジア探究文系活動報告8

9月16日（金）本校多目的ホールにて、第1学年全生徒対象のSGH関連講演を実施しました。

今回は、関西学院大学の学生の方々が、国連ユースボランティアに従事したご経験（モザンビーク・エチオピアで従事）、様々な問題を抱える国際社会に身を置いて考えたこと、北野生へのメッセージを語っていただきました。本校生徒が真の国際貢献を考えるうえでのヒントを得て、視野を拡大する時間になりました。

以下に生徒のレポートの一部を紹介し、感謝の意に代えさせていただきます。

◇戦争は終わらせるのも大変だが、そのあとの復興にもっと大きな困難が伴うし、やってあげる復興ではなく、現地の人々が関わる復興が大切だとわかった。

◇自分の経験や能力を社会に還元すべきだ、というメッセージの意味がよくわかった。

◇現地の人たちの笑顔の写真を見せてもらい、アフリカの問題は数字では表現できないと理解できた。

◇価値観の違いを受け入れないと、国際貢献もうまくいかないことがわかった。

◇価値観の異なる人と触れ合うことが学びであり生き方を豊かにする、というお話が印象にのこった。

◇今まで自分の将来を考える時に、自分のことしか頭になかった。これから、社会の中の自分をイメージしようと思った。

◇先進国日本が行っている国際貢献と異なる、個人としての貢献のあり方を考えさせられた。

◇現地の文化や考え方を尊重しながら支援できれば、「自分たちで」発展していく契機になるし、多文化共生にもつながると思った。